

## 福島第一原発・まとめに代えて

### ●今後の、逃げられない課題の一例として、以下のものが上げられる（施設に影響を及ぼす地震・津波等の天災は考慮していない）。

- 廃棄物の最終的な総量が予測不可（保管場所・容量は常に余裕を見て確保しなければならない）。
- 設備の経年劣化（メンテナンス・リプレースが必要）。
- タンク内のトリチウム水（ALPS処理済み水）の扱い（陸上での長期保管か、海洋排水か）
- 数十年に渡る人員の確保（現状では約9割が協力企業の雇用。多重請負体制でいつまで続くのか）。
- 敷地外での対応が必要になった場合の「政治の責任」の明確化（敷地外での廃棄物保管等）。
- 放射性廃棄物の最終処分方法・場所の決定（燃料棒を含めて、最終的には敷地外に搬出する必要がある）。
- 現状の枠組みを続ける限り、東電HDは潰せない。東電を数十年単位で救済し続けるのか。

### ●現状の進捗に関する評価

- 労働環境の改善と、維持管理（見回り・保守）に関しては顕著な進展があるが、最も大きなリスク要因である核燃料（放射性廃棄物）の抜き取りに関しては、僅かな進展に留まっているのではないか。
- 廃棄物の調査や安定化は、緒に就いたばかりで、ゴールが見える目途すら立っていないのではないか。
- デブリ取り出しに関しては場所や性状を確認できるかどうか分からず、被曝線量・被曝人数・資機材の廃棄物ばかりが増えていくのではないか。
- QMS（Quality Management System／品質保証活動）ができていない事例も発生しており、人為ミス等から事故に繋がる可能性が否定できない。

### ●廃炉の実施体制に関する評価。

- 必要な資金や研究開発・実験・分析に関しては、東電だけでは準備・実行できず、経産省・NDFを始め、他の組織に支えられている（フクイチの日常的な業務に必要な経費すら、原価として電気料金に算入する事が認められている。又、研究開発や施設整備の費用も国庫負担）
- 東電HDは、議決権株式の過半数が国有化されており、実質的な「国営企業」



これで果たして、「一義的に責任を負っているのは東電」と言えるのか？

- 東電と他の組織の折衝プロセスは公開されていない。特定原子力施設の実施計画が原子力規制委員会に提出されて初めて、内容が国民に明らかにされる。
- オフサイトを含めて強力な権限を持つ原子力災害対策本部（長・内閣総理大臣）も、国権の最高機関である国会も、主導権を発揮しておらず、責任を持つべき組織が本来の役割から「逃げている」のではないか（国会事故調の報告書も店晒し／※注）。
- 実効性ある監視・規制を行っているのは、実質的には原子力規制委員会・規制庁だけなのではないか。



より大きな権限を持っている原災本部や国会が積極的に動かず、課題が解決できるのか？

（注／2017年5月25日の衆議院原子力問題調査特別委員会の理事会で、7名から成るアドバイザリーボード〔会長：黒川清〕の設置が決定された。意見聴取の日時・人選は委員長一任。6月12日に第1回意見聴取が行われた）

## ●フクイチに取り組む体制として、以下の原則で臨むべきではないか（叩き台としての私案）

### ◆国会・内閣の責任の明確化

- 東京電力HDを存続させつつ、数多くの課題の解決を目指すというのは、枠組みとして無茶。事故を起こした責任の明確化という観点からも、東電は解体し、「廃炉公社」を設立すべき。
- 国会事故調報告書に基づいた、事故の再検証・規制の監視（会期に捉われない常設委員会の設置等）

### ◆日常的な経費も含めた、増税を伴わない国費投入

- 既に実質的に国費投入となっている。国民も腹を括るべき。

### ◆お金の流れも含めたプロセスの共有・透明化

### ◆当面は「中長期的なリスク把握・リスク低減」を最大の目的とすべきではないか。



安全・着実・継続的な実施体制の確立  
労務管理も含めた実効性ある一元的な監視・規制の確立

## ●呼びかけ

- 実施体制や具体策を議論しようにも、国民（主権者）の関心が高まらなないと成り立ちません。
- まずは一人でも多くの主権者・国民が一人称で関心を持ち、一人称で情報を収集する事です。東電のサイトには、フクイチの日報が一日一回、掲載されます。PC・スマホ・タブレットに東電のサイトをブックマーク（お気に入り登録）し、一日一回はチェックする癖をつけるところから始めてみて下さい。リリースのコーナーはトップページを下にスクロールすれば出てきます。

<http://www.tepco.co.jp/index-j.html>

- 友人・知人で「フクイチは俺に関係ない」と仰る方への議論のきっかけ（例）。

「全ての作業が止まったら、日本がどうなると思いますか？」

「平日平均6000人が被曝労働していて、これまで、東電が認めているだけでも16人が亡くなっている」

「敷地には限りがあるから、増え続ける放射性廃棄物を永久には支えられない」

「大気中には、今でも、日量平均100万ベクレル以上の放射性セシウムが放出されている」

「固体廃棄物は屋外保管になっているから、万が一、火事になれば、放射性物質が大量に放出される」と、問いかけ・問題提起してみてください。

## ★改めて、最後に

- フクイチから撤退すれば、廃棄物が管理できなくなり、建屋もいつかは崩壊し、放射性物質が環境中に撒き散らされる。
- 一次の地震・津波によって放射性物質が環境中に撒き散らされるリスクと隣合わせの状態が続いている。。
- 廃炉が達成されるまで、人員・予算・資機材が吸い込まれ続け、放射性廃棄物が増え続ける。
- 「東電を指導する」「東電は何をしている」では変わらない。「東電批判」で済ませてよしとする、「政治的・感情的に居心地の良い状態」から脱却し、国民全員が一人称で考え、取り組まねばならない。